

『日本古燈器大観』と日本のあかり文化研究調査委員会

見学会報告



日 時：2024年7月22日（月曜）

場 所：海上保安試験研究センター

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/soshiki/soumu/center/map.html>

参加者：委員長他9名

概 要：海上保安試験研究センターは、東京都立川市の広域防災基地の一角にあり、元をたどるとその歴史は古く、明治2年7月に 神奈川裁判所に燈明台掛が置かれ、横浜市中区北仲通において 灯台用の木工・鍛冶工関係の製作を開始したのに由来する。

「その後、幾多の変遷を経て、昭和23年5月海上保安庁発足とともに 海上保安庁灯台局工務課工場となりました。～ ～平成2年に横浜市から立川市へ移転しました。」（上記同センターホームページより）

現在燈台の製造・保守に関わっていた設備及び、歴代ランプが保存されていることから、見学させていただきました。中には、石油ランプや1900年製の歴史的ランプもありました。



各種3等4等灯台



ガラス変成釜



石油ランプ類



白熱電球類

公務の中、久木正則センター長はじめ、星野宏和様、山本充様には長時間にわたり、ご対応・ご説明をいただきました。深く感謝申し上げます。